

地域特産物ブルーベリーの研究と高校生による小学生向け科学教室

# 特産品を通じた異校種連携

## G7首脳にも供されたブルーベリー

かつて奥州街道の宿場町だった富谷（とみや）町は、仙台北郊のベッドタウンとして急成長し、2016年に単独で市制に移行した。

そんな富谷市唯一の高等学校である富谷高校は、地域に根ざした教育活動に力を入れており、同校自然科学部は、富谷特産のブルーベリーを研究テーマに選んだ。

顧問の大内一矢教諭は「特産品を通じて市内の小学校とのつながりを深め、科学への興味喚起に役立てようと考えました」と語る。市政移行の年に開催された伊勢志摩サミットでは、各国首脳に富谷産のブルーベリージュースが供された。こうしたこともあって、市内の小学校でも「総合的な学習の時間」でブルーベリーの摘み取りなどが行われ始めた。



自然科学部のメンバー



## 宮城県富谷高等学校



### ●実施担当

大内一矢 教諭

### ●活動のモットー

生徒には「やればできる」という自信をつけてもらいたい。そのために、自分で考えて行ったことが成果につながる成功体験をさせてあげたい。



小学校から届いたお礼の手紙



染色実験(出前授業)の様子



出前授業でブルーベリーのクイズを

## 部員たちを急成長させた小学生たちの反応

「ブルーベリー果皮色素による染色」を研究テーマとした自然科学部では、宮城県生徒理科研究発表会での発表などに続き、2017年から小学校への出前授業を始めた。市内8つの小学校の3年生全クラスで、部員が先生となつてろ紙の染色実験を行うのだ。

クエン酸や重曹を加えることでブルーベリーの絞り汁が赤や深緑に変化する様子を、児童たちは大興奮。しかし、大内教諭が驚いたのは、児童の反応よりも部員たちの変化だった。「普段は引込み思案な部員たちが生き生きとしていたのです」と語る。

以後、部員たちのコミュニケーション能力は向上し、部の活動も活発になった。大内教諭は「自分たちがやってきたことにダイレクトな反応が返ってくるのが、よほど面白かったのでしょう。そういう体験がいい刺激になったのだと思います」と分析する。市と同様、部員たちも急成長を遂げているのだ。

(平成29年度プログラム助成)

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索